

科目名		呼吸病態学論文指導	
科目責任者	西田 千夏	呼吸病態学	教授
担当者	和泉 弘人	(呼吸病態学)	准教授
開講時期:	2年次	単位数:	6 単位
<p>● 科目の教育目標</p> <p>一般目標 (GIO)</p> <p>職業性呼吸器疾患の病態モデルやスクリーニングモデル等の分子生物学的アプローチを介した病態解析を集積し、論文または報告書を作成して総合的に理解する。</p> <p>行動目標 (SBOs)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 職業性肺疾患のテーマをみいだすことができる。</li> <li>2) 分子生物学的アプローチの手法をみいだすことができる。</li> <li>3) 分子生物学的アプローチの手法の意義をみいだすことができる。</li> <li>4) 自分のテーマにおいて職業性肺疾患の意義をみいだすことができる。</li> <li>5) 自分のテーマにおける分子生物学的手法の意義をみいだすことができる。</li> <li>6) 自分のテーマにおける分子生物学的手法を用いた解析ができる。</li> <li>7) 職業性肺疾患において分子生物学的アプローチの応用を論述できる。</li> <li>8) 職業性肺疾患において分子生物学的アプローチ解析の応用を論述できる。</li> <li>9) 自分のテーマにおける職業性肺疾患の分子生物学的手法の解析の応用を論述できる。</li> <li>10) 国内外の職業性肺疾患における分子生物学アプローチの意義を論述できる。</li> </ol>			
● 評価方法	学会・討論会における発表 (30%)、討論 (20%)、報告書または論文 (50%) で総合評価する。		
● 参考文献	指導の中で必要に応じ紹介する。		

● 授業内容

内容	担当教員
研究テーマにおいて得られた結果の解釈の仕方について、科学的論理思考ができるように指導する。	和泉
カンファレンス、抄読会等を介して、プレゼンテーションやコミュニケーション能力の更なる充実化を図るとともに、自身の研究テーマとの整合性等を検証させ、報告書や論文における考察する能力を養う。	和泉
研究テーマにおいて得られた結果のまとめ方についての実践的な報告書又は論文指導を行う。	西田